

Project  E07	地域教育専攻  <b>高校生の地域調査・探究活動をサポートするプロジェクト</b>
メンバー	[学 生] 小林大雅/福田誠也/高橋洋平 [担当教員] 山口好和/奥田秀巳
<p><b>【概要・目的】</b></p> <p>高校では、2022年度から新しい学習指導要領による教育活動が実施されている。そのうち、教員間の協議や創発的な教材開発が必要な取り組みが「総合的な探究の時間」である。北海道立函館西高校では、2023年度にこれまでの取り組みを見直して、新しい「探究」の学習活動を実施するべく準備を進めている。本プロジェクトでは、主に中学校、高校での学習活動、単元・教材づくりに関心のある教育大学生(必要があれば小学校も含む)が、高校1・2年生の課題追究、資料調査などにおいて、サポートを行い、「総合的な探究の時間」における深い学びの実現に向けたサポートをすることを目的とする。</p>	
<p><b>【プロセスと成果】</b></p> <p>私たちの活動から、探求的な学習を実現するため、「1課題の設定→2情報の収集→3整理・分析→4まとめ」のプロセスにおいて問題発見はできているものの、「問い」の設定に苦労していることが分かった。</p> <p>そこで、高校と大学を行き来しながら、高校生と対話し、「問い」を立てることに焦点を当てて活動した。実際に高校の「総合的な学習の時間」に訪問した際に苦戦している生徒に対して、先行研究を調べるアドバイスや生徒が興味を持っている事象がどのように地域と関わっているのか、それを探究することでどのような効果が地域にあるのかを深堀しながら一緒に学びを深めた。</p> <p>その結果、1課題設定→2情報収集の過程をスムーズに行うことができ、「問い」の設定を生徒が自分自身で行うことができていた。また、ワークショップの活動での高校生との哲学対話を通して、他者と交流し、自分の考えをまとめ・話すという活動から、探究のプロセスにおいて3整理・分析を中心に高校生の探究を深めることができた。</p>	
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="268 1317 683 1568">  <p style="text-align: center;">研究活動の様子</p> </div> <div data-bbox="869 1317 1305 1568">  <p style="text-align: center;">高校訪問の様子</p> </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;">  <p style="text-align: center;">活動の振り返りの様子</p> </div>	

### 【総括と反省・今後の課題】

今回の活動では、実際に複数の高校を訪問したり、ワークショップを通して高校生との交流を行った。その中で、「総合的な探究の時間」における、生徒の探究への取り組み状況や教員側が授業を運営する上で、生徒に対してより実践的で効果がある学びを提供するための方法や運営していく際の課題などを学ぶことが出来た。それらの学びを生かした上で、実際に私たちが、「大学生」としてサポートしていくためにはどのような方法があるのかを考え、実践する事が今後の課題である。

また、展望としては、市立函館高校と附属函館中学校の事例から「持続的な探究活動のサポート」が必要であると考え、生徒の探究活動をより深いものにしたい。そのために学校への訪問を定期的なものとし、関係を築きながら活動を続けていきたい。



発表会の様子①



発表会の様子②

### 【地域からの評価】

訪問した高校からは、今後の探究における協働についても提案があった。今回で本プロジェクトは終了となるが、今後も機会があれば、各学校と協働して高校生の探究活動をサポートする活動を行いたい。

### 【その他】

#### 年間スケジュール

5月～7月

総合的な学習の時間の調査/実施高校の調査

9月～11月

哲学ワークショップの参加

12月～1月

市立函館高校/西高校への訪問

1月～2月

活動のまとめと考察